

日時：令和2年12月28日(月)までに意見聴取

場所：書面による開催

参加者：

＜協議会委員＞（敬称略）

大阪府立大学 大学院人間社会システム科学研究科 教授	伊井 直比呂
本校PTA会長	高山 晃彦
本校同窓会会長	南 登章生
泉佐野商工会議所 専務理事	上野 公義
大阪大学大学院 人間科学研究科附属未来共創センター 特任教授	榎井 縁
泉佐野市立佐野中学校 学校長	古谷 秋雄

＜事務局＞

校長	南部 潔
教頭	藤原 和美
事務長	佃 計司
首席兼学習進路指導部長	宮前 恵己
首席兼総務生徒指導部長	木村 明

送付資料：

1. 第2回学校運営協議会資料
2. 第1回学校運営協議会資料（参考送付）
3. 第1回運営協議会報告書（参考送付）
4. 2020 SANO マネジメントシート進捗状況
5. 令和2年度第1回授業アンケートシート報告（学校全体）
6. 令和3年度使用教科用図書採択について
7. 令和2年度大阪府立佐野高等学校学校運営協議会実施要項
8. ご意見聴取用FAX

意見聴取内容：

意見：◇第1回授業アンケート結果では、一部「授業に対する生徒の評価」について生徒からの回答で「ややあてはまらない」が増加したとあったが、どのような授業改善を試みられたか。

- 指導教諭が授業見学会を14講座企画して実施し、教科にとらわれず多様な授業を自身の参考にする取り組みを行った。多くの先生方が参加し、授業改善への学びにつながった。

意見：◇「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰1人取り残すことなく、後世に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」、「一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習」（文部科学省）の目的をどのように校内の教育活動に取り入れて内実化されようとしているのか。

- 本校では、課題配信や学習動画の配信による学習ができるよう教育クラウドサービスを導入した。学校が再開してからも、授業の復習が家庭でできるよう課題を配信するなど活用している。校内の無線LANは今年度中に整備されるが、1人1台端末がそろうのは6月以降になる予定である。今年度の経験を活かし、文部科学省が掲げる目的を教育活動全般に取り入れられるよう努めてまいりたい。

意見：◇コロナ禍の状況で、行事などの削減変更による生徒への影響はどうか。

- 長い臨時休業期間があったことに加え、マスクの着用や手指の消毒といった新しい習慣が始まったり、節目となる入学式が中止になったことで、学校生活に慣れるまで時間がかかった様子がみられ

た。また、クラスや学年の親睦を深める校外学習、文化祭といった行事が中止となり、つらい気持ちになった生徒もいた。新型コロナウイルス感染症拡大の不安はこれからもしばらくは続くと思うが、感染症対策をしながら学校行事などを工夫してできるように努めたい。

- 意見：◇ユネスコスクールとしての独自性を発信していただいていますこと、日頃より感謝申し上げます。その取り組みの中で「総合的な探究の時間にユネスコ部が実践している活動が応用できないか研究している」との記載がありました。ぜひとも全国のユネスコスクールの先進事例として取り組んでいただければと思います。
- ◇佐野高校を選んだ理由では、「英語」への魅力が多く、国際理解や異文化、第二外国語とありますが、海外との交流が困難なコロナ禍での現状を改善するために、より具体的なカリキュラム内容などの早々の発信をされてはどうでしょうか。
 - ◇学習と進路保証では授業日数、時間数の確保のため「学校行事」を調整され、各学年にあった教育方針を進め、3年生は3者懇談や新入試制度の情報提供を行っており、感銘を受けた。
 - ◇国際交流も「オンライン交流」で新しい時代を切り開いている。
 - ◇広報活動も、「広報プロジェクトチーム」を設立され、パンフ、ビデオ、HP等を活用され、学校紹介を継続されたことが素晴らしいと思われる。